

東日本大震災と宮城県のプロスポーツ

～影響と対応～

The Great East Japan Earthquake and Professional Sports Clubs in Miyagi Prefecture

～Influence and Countermeasure～

1K08B043-1

岡崎多恵

指導教員 主査 武藤泰明 先生

副査 間野義之 先生

【第一章】序論

2011年3月11日に日本中を震撼させた東日本大震災が発生した。阪神淡路大震災を超える規模で、震源から最も近く、甚大な被害を被った宮城県ではライフラインの滞りだけでなく、津波によって町のすべてが流され、また様々な商業施設や娯楽施設が使用困難になった。

このような状況下で真っ先に切り捨てられてもおかしくないものの一つに、プロスポーツが考えられる。優先されるべきものは人々の生活であり、スポーツではない。従って、関心は低下し、観戦者は減少していると予測することができる。そこで実際の戦績や観客動員数、またチームが行った復興支援活動の詳細を記録し、検証する。

【第二章】東日本大震災の概要

東日本大震災の概要について述べ、特に被害の大きかった岩手県・宮城県・福島県について詳細を記した。被害の大きさを明らかにすると共に、スポーツと結びつきにくい環境下にあったことを論じている。

【第三章】東日本大震災における各プロリーグの動向

NPB、Jリーグ、bjリーグの各プロリーグとしての支援や働きについて論じている。NPBは開幕が延期になり、Jリーグでは外国人選手の退団が相次いだ。また両リーグ共に、節電対策により、開催時間の変更やルール変更が行われた。bjリーグでは、震災により3チームがシーズン途中で活動停止とした。その後、2チームの参入は決定したが、1チームは参入を見合わせる事となった。

ここでは、被災者の支援だけでなく、選手の救済や支援などに力を入れたことも明らかになった。

【第四章】宮城県のプロチームの動向

四章は三節に分け論じている。

一節では東北楽天ゴールデンイーグルスの動向を記している。いち早く支援活動を始め、シーズンを通して野球教室やホームゲーム招待事業など様々な取

り組みを行った。

二節ではベガルタ仙台を取り上げた。震災後、チームの活動拠点が関東になり、震災直後はチームとしての復興活動は行うことができなかった。しかし、サポーターへの呼び掛けにより、避難所への不足物資の提供等、多くの協力によって次第に支援体制が整っていた。

三節では仙台 89ERS の動向を記した。チームはホームタウンの仙台を始めとした宮城県の被害が甚大なことや、地震によりスポンサー企業が不安定になった事態を受け、活動続行は不能と判断した為、チームは活動停止となった。しかし、残った職員やチアリーダーで避難所や学校訪問等の支援活動は続けていた。

共通している事は、募金活動と子どもへの支援であった。募金や義援金は経済的・物質的な支援になり、子どもへの支援は精神的な支援と言える。このような中でそれぞれのシーズンが開幕し、その観客動員数を前年度と比較する事で関心が低下しているか否かを検証した。

【第五章】結論と考察

地震による被害があまりにも大きく、プロスポーツに対する関心が薄れてしまうのではないかと懸念されたが、結果として、観客数が大幅に減少することもなく、むしろ維持・向上していることを表す数値が多く見られた。

特に、仙台 89ERS のホーム開幕戦は平均 2000 人前後と言われる中で、5000 人を超える観客数を記録した。それぞれのチームで行った復興支援活動とどれほどの結びつきがあるかは明確ではない。しかし、記録した数値からは、プロスポーツという興業が求められ、受け入れられていったと考える事ができるだろう。

復興に向けて共に乗り越えようするこれらのチームは、今後ますます、宮城県の人々にとってかけがえのない存在になる可能性があり、その期待をしたいところである。